

平成30年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立北上小学校
教諭 松川 幸浩

1 はじめに

石巻市立北上小学校は、東日本大震災の被災により、元々あった3小学校が閉校、統合して25年度に開校した。北上小学校では、「心のふるさとをもつ人間は、心が安定して、自分自身を見失わずに人に尽くすことを幸せに感じられる人である。」という理念の下、「ふるさとを愛し（北上愛）、豊かな知恵と心を持ち、たくましく生きる児童の育成」を教育目標に掲げた。この教育目標具現化のために、開校当初から研究主題を「ふるさと北上に誇りと愛着がもてる児童の育成」とした。副題を「生活科と総合的な学習の時間での探究的学習活動の充実を通して」として研究を進めてきた。

以上のことから、本校でふるさと愛を育むために、地域と積極的に関わる体験活動を重視してきた。しかし地域には、神割崎（公共トイレの管理など）、今年2月にオープンした北上観光物産交流センターや川のビジターセンターなどの公共物が数多くあるのだが、実は税金で建設されたり、運営されたりしていることを知らない児童が多い。よって、今回の租税教育を通して、児童が地域と税との関わりについて学べるようにしていきたい。

また、学区内には、コンビニエンスストアがなく、個人で経営している店舗が数える程しかないので、児童は日常的な買い物の経験が乏しいと言える。つまり、消費税を直接的に納めているという感覚を掴めていない児童が多いと感じる。また、金融機関が郵便局と農協の2か所のみであるので、県民税や市民税、自動車税などの各種税について金融機関を通して払い込んでいることを目の当たりにした経験も少ないと言える。したがって、児童が自分と税との関わりについても学べるようにしていきたい。



石巻市北上観光物産交流センター



武山商店



相沢商店



橋浦郵便局

2 児童の実態（男子8名 女子4名 計12名）

本学級の児童は、委員会の仕事、当番の仕事など、自分の役割をしっかりと果たす責任感の強い児童である。学習では、課題をどうやったら解決できるか友だちと相談して見通しをもったり、自分の考えをノートにしっかりとまとめたり、学習意欲の高い児童である。

また、税に関するアンケートを行った。結果は次の通りである。

(1)「税」と聞いてどんなイメージを持ちますか？	
お金5	国民のお金1 人々に使うお金2 大人がよく文句を言うイメージ1 難しい1 取られるもの2
(2)「税」の種類で知っているものは何ですか？	
消費税12	自動車税1
(3)税金はどこに納められていると思いますか？	
市役所4	国5 県1 <u>銀行2</u> <u>日本のどこか1</u> <u>分からない1</u>
(4)税金は何に使われていると思いますか？	
<u>分からない4</u>	町の発展2 いろいろ4 学校2 みんなが使うもの1
(5)税金の使い道はどこで決めていると思いますか？	
<u>分からない3</u>	国5 県1 いろいろな場所4
(6)税金は必要だと思いますか？（理由も書きましょう。）	
<u>必要10</u>	理由 税金はいろいろなことに使われていると思うから。2 生活が不自由になってしまうから。5 ないとお金がいっぱいかかるから。1 公園などをつくる時の費用にするから。1 なんとなく1
分からない2	税金が何に使われているか分からないから。2
(7)税金について知りたいことはありますか？	
<u>ない11</u>	税金が何に使われているか1

以上の結果から、全員が消費税のことは知っている。しかし、税金をどこに納めているのか、何に使われているか、使い道はどこで決めているかについて分からないと答えた児童が多い。つまり、税に対する基礎的・基本的な知識が乏しい。

また、全員が税金について必要であると感じている児童が多いのにも関わらず、知りたいことがないと答えた児童がほとんどである。つまり、税についての興味関心が乏しいといえる。

したがって、今回の租税教育を通して税に関する基礎的・基本的な知識と理解の定着ができるようにしていく。また、税に対する興味関心を高められるようにしていく。

3 指導にあたって

指導にあたっては、前述を踏まえ、次の4つの手だてを講じていく。

(1) 地域と税との関わり

総合的な学習の時間を核として、地域の人・もの・ことと税金についてのつながりに着目させる。具体的には、実際に地域の建物の建設費はどれぐらいかかっているか、その建設費には税金が使われていることを理解できるようにする。また、今後の地域の未来を考える学習を通して、自分たちのプランの中で、税金を必要とした建設物や計画にどれぐらいの費用がかかりそうか簡単にでも試算できるような機会を設ける。

(2) 自分と税との関わり

大人になるまで消費税を実際に支払う場面が多々出てくるので、特に自分と消費税との関わりを重視していく。そのために、実際の買い物を通して、どれぐらい消費税を納めたことになるか算出し、納税を実感できるようにしていく。

(3) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

税務関係者等を講師として招聘し、租税教室を実施する。その中で、税金とは何か、消費税以外にどんな税の種類があるか、税金は何に使われているなどについて具体的なお話をいただけるようにする。

(4) 税に対する興味関心の向上

上記の(1)(2)(3)の手だてを講じることを通して、振り返り(学習感想)の機会を十分に確保する。今後の自分と税との関わり方について考えさせ、価値付け、称賛していく。

4 総合的な学習の時間、社会科との関連

(1) 総合的な学習の時間との関連

○横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）

- ・自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題（資源エネルギー）

○地域や学校の特色に応じた課題

- ・町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織（町づくり）
- ・商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会（地域経済）

（文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説
総合的な学習の時間編』，日本文教出版）

(2) 社会科との関連

「租税の役割」については、租税が国や県、市によって行われている対策や事業などの費用として使われていること、それらは主に国民によって納められた税金であることなどを理解できるようにする。その際、限られた財源をどのように配分するのかを決める責任は、国会や地方議会などの制度を通して、国民や住民にあることに触れるようにする。

（文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説
社会編』，日本文教出版）

5 指導計画（43時間扱い）

総合的な学習の時間 年間計画

学年	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月
6年	オリエンテーション1	ふるさと北上① 16 「ふるさと北上探訪」		ふるさと北上② 10 「会津若松とふるさと北上」		
	北上の伝統（和太鼓）5（鼓笛）3		北上の伝統（和太鼓）3（鼓笛）1		北上の伝統（和太鼓）3	
学校行事その他	入学式 家庭訪問 避難訓練 学習参観 代表委員会	運動会 1年生を迎える会 交通安全教室	避難訓練 代表委員会 岩手合宿	学習参観 租税教室（社会科） 社明パレード	祖父母参観 修学旅行 白浜海水浴場 復活祭 交通安全教室 租税はがきコンクール	代表委員会 学芸会

11月	12月	1月	2月	3月
ふるさと北上③ 17 「マイプラン北上」			(1)地域と税との関わり	
北上の伝統（和太鼓）4（鼓笛）3			(4)税に対する興味関心の向上 ((1)(2)(3)の取組みを通して)	
避難訓練 教育相談	学習参観	避難訓練	学習参観	6年生を送る会 卒業式 修了式

6 実践

「3 指導にあたって」の(1)～(4)の手だてを講じたことによって、以下のよう
な効果や変容があった。

(1) 地域と税との関わり

6月に、総合「歴史・文化探訪」の校外学習にて、北上の多くの歴史・文化に
関する施設を巡った。その中で北上観光物産交流センターを訪れた。この施設は
今年2月にオープンしたばかりである。北上の名産品が購入できたり、訪れた人
が休憩できたりする場である。職員の方からの概要の説明の中で、建設費が4,
200万円であるとお話いただいた。これは、税金で建てられたという事実もお
話いただいた。最近、身近な所で多額の税金が使われていることを実感するこ
とができた。



また、7月後半に税務関係者等を講師として招聘し、租税教室を開いた。レプ
リカであるが、1億円と4,200万円の実際の重さを体感した。児童の感想か
ら、「これだけの税金をかけて建てた建物であれば、よりお客さんに来てもら
い、北上の名産品を買ってもらってほしい。」という感想が挙がり、地域と税と
の関わり、税のよりよい使われ方について十分考えることができた。



今後、総合「マイプラン北上」の学習の中で、公共施設、特に4月にオープン
した川のビジターセンターの使い方、いろんな人たちに使ってもらうためのイベ
ントの計画について職員の方と共に構想する学習を展開する。費用(税金)は、
どれぐらいかかりそうか簡単にでも試算できるような機会を設ける。そして、費
用対効果があるかどうか考えられるようにしていきたい。

(2) 自分と税との関わり

修学旅行の際、児童はおみやげを購入したり、絵付け体験をしたりし、1人約7,000円を使った。そのうちの8%は消費税として納税したことを説明した。その後、児童は6年の算数で学習した「比」を活用して、実際にいくら消費税を納めたのか金額を算出した。1人につき、およそ520円の消費税を納めたことが分かった。感想から「意外と高い税金を支払っている。」、「520円あったら、結構なものが買える。」と消費税額の大きさを実感することができた。



(3) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

租税教室の中で、税の種類、税の使い道、納税は国民の三大義務であることを紹介していただいた。児童から「所得税や市民税などがあることが分かった。」、「学校の実験器具や体育の用具などは税金で購入できているのが分かった。」などの感想が挙がり、税に関する基礎的・基本的な知識を押さえることができた。

また、特に印象的だったことは、税金が無くなったら世の中はどうになってしまうのか動画で紹介してもらったことである。税金が無くなったら、公共サービスを受けられなくなってしまう。例えば学校の教科書が有料化となってしまう。病院への受診・手術に莫大な費用がかかる。橋や道路が個々人のものになってしまう、不当な交通料を支払わなければならないなどが紹介された。児童から「税金がないと確実に不安定な世の中になる。税金は国民全員が支払う必要がある。」という感想が挙がり、納税の必要性を感じることもできた。



(4) 税に対する興味関心の向上

上記の(1)(2)(3)の手だてを講じ、振り返りの機会を十分に確保してきた。上述した通り、地域と税との関わり、自分と税との関わり、税のよりよい使われ方、消費税額の大きさ、納税の必要性などについて考えることができ、税に対する興味関心が向上したのではないかと考える。

☆租税教室の感想から

税金がなぜ必要なのかを	ビデオを見て税金がいかに多いと分かった。
勉強できて、思ったのは税金がないと	
スラムのようにあると思いました。	1億円の重さも分かりました。
たとえば、道を通るのにも金をとられたり	税金がないと、食べ物も高くなって満足した食事
しんこがたぬになつたりして大変だと思いました	にはなりませんでした。
	ビデオを見て、税金がないと、道を通ったりするだけ、金をはらわなくて済むので税金は必要だと思いました。

☆自分が納めた消費税について算出した感想

7000円を使うと518円の消費税がかかっていることが分かりました。
12人全員での合計金額が5000円だったのでびっくりしました。税の重さ分かりました。
私達も、ちゃんと税をはらっている人だなと思いました。
国のことにつかわれるのならいいかな～と思いました。
むだなことにお金をつかわないようにしようと思いました。

7 成果と課題

- 地域や行事に使われている税金を身近に感じる事ができた。
- 消費税の納税経験により、税額の大きさを実感することができた。
- 税を捉え、児童の納税に参画する意識が芽生えた。
- 消費税以外の税について実感が十分でない児童が多い。今後、社会科の学習で公民の分野に入っていくので、消費税以外の税にふれていく。

資料1

「税金」に関するアンケート

名前（ ）

1. 「税」と聞いてどんなイメージを持っていましたか？

--

2. 「税」の種類で知っていたものは何ですか？

--

3. 税金はどこに納められていると思いますか？

--

4. 税金は何に使われていると思いますか？

--

5. 税金の使い道はどこで決めていると思いますか？

--

6. 税金は必要だと思いますか？（理由も書きましょう。）

--

7. 税金について知りたいことはありますか？

--

資料2

租税教室の感想

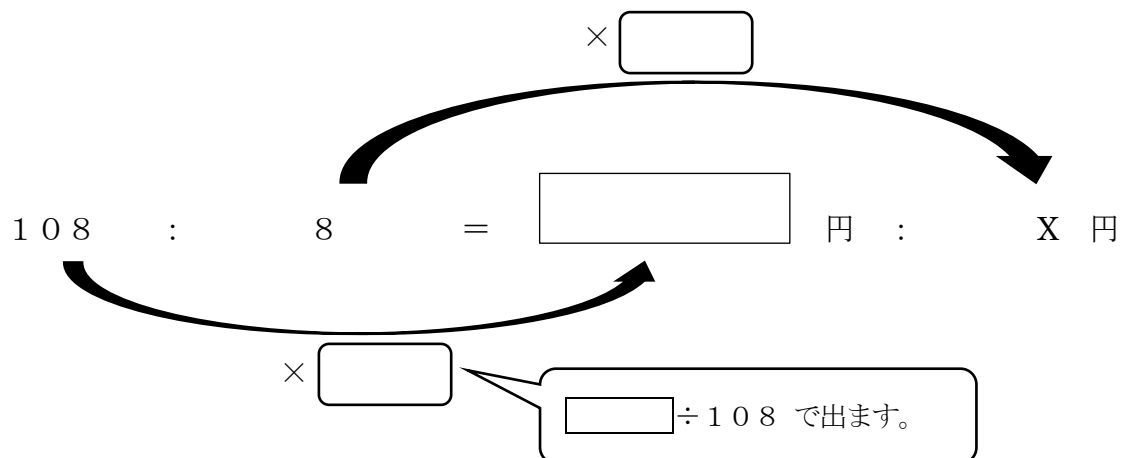
名前（ ）

資料3

消費税を出そう

名前 ()

税込み率 : 消費税率 = 使ったお金(税込み) : 消費税



☆計算スペース

☆消費税を出してみての感想